

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500231	事業の開始年月日	平成25年8月1日	
		指定年月日	平成25年8月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ川崎神木本町			
所在地	(〒216-0031) 神奈川県川崎市宮前区神木本町1-25-12			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年10月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多摩丘陵の丘の上にあり、すぐ裏には、等覚院(つつじ寺)や近くに妙楽寺(あじさい寺)や散歩コースの東高根公園など、緑に囲まれた自然環境にとても恵まれています。安らぎ・安心・快適を目標と、ご利用者の自然な笑顔が日々見られるように介護を実践いたします。

ユニット名の1Fつつじは、「川崎市の花」、2Fのコスモスは、「宮前区の花」から命名しており、地域に根差したホームを目指しています。

近隣の小学校の交流など、地域交流に力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年8月21日	評価機関 評価決定日	平成27年9月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇家族との連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回開催している家族会、運営推進会議への家族代表の出席、家族の面会時の職員との会話や担当者による広報紙の作成などを活用して家族との連携を深めている。また、家族との外出支援を積極的に行って、利用者一人一人が心地よい時間を過ごせるように支援している。 <p>◇積極的なボランティアの受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体の支援を受けて、傾聴や散歩、習字、折り紙などの楽しみごとを多く持って、利用者の生活に潤いをもたらしている。 <p>◇医療との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療連携体制のもと医師と看護師が連携して医療面でのケアがなされている。月2回の協力医の往診、訪問看護師によるバイタルチェックや健康相談ができ利用者・家族の安心感につながっている。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇職員への研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月行っているスタッフ会議で課題とする事柄についての30分研修を行い、介護のあり方について振り返り、職員の資質の向上の場としている。 <p>◇日常的な外出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のそれぞれの状況に合わせて散歩に出掛け、自然と触れ合える機会を大切にしており、ボランティアの協力も依頼している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	つつじの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざすことをめざして、ユニット名を「つつじの家」（川崎市の花）と命名し、「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアを提供します」を日々実践しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・開所時に作成した事業所理念と施設の理念「いつも笑顔が見られる安心・安全・安楽な一時を提供いたします」を事務所に掲示している。 ・管理者と職員は日々の業務が理念に沿っているかを確認し合い、その具現化に努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	内覧会に、ご近所の方においでいただき、介護施設であることや、そのサービス内容をご理解いただく。ご利用者と散歩に出かけた際に進んで挨拶するよう心掛けています。地域の小学校とも協力関係を築いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・内覧会を開きサービス内容を説明して、地域からの理解が得られるように努めている。 ・散歩時に出会う近隣の方とは挨拶を交わし、友好関係が築けるように心がけている。 ・小学校との交流ができるよう、打ち合わせを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入して、地域の一員としての活動に参加して、関係性が深まることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内覧会を通して、認知症についての理解や支援をお願いしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回のペースで実施し、活動の評価や要望を受け、それを具体化することにより、サービス向上に努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・併設の小規模多機能事業所と合同で開催し、副自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表が参加している。 ・事業所の状況報告やイベントの案内、参加者からの要望や質問を受けて協議し、運営に反映している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解を得るご協力いただいています。	<ul style="list-style-type: none"> ・区高齢障害課高齢者支援担当職員が運営推進会議にオブザーバーとして出席があり、アドバイスを受けている。 ・地域包括支援センターとは、利用者の紹介などで連携を深めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての研修を行っています。具体的にどのような行為が身体拘束になるのかを、スタッフが理解するようにします。また、やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。	・身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員は30分研修などで理解を深め、日常のケアに臨んでいる。 ・玄関と各ユニットの出入り口は、利用者の安全確保のために家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施し、高齢者虐待の5つの例を具体的に学び、スタッフ各々がご利用者の人格・尊厳を尊ぶことにより、ホーム内での虐待が見過ごされないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書を、ご利用者ご家族と読み合わせをすることにより、ご理解・ご納得頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議にご家族代表としてご出席いただいた際、また日常の、面会に来られた際にご意見、ご要望をいただき、運営に反映するようにしています。	・運営推進会議や年2回の家族会の中で、家族からの意見や要望を聞いている。また、家族の面会時には、言葉をかけて意見や要望の収集に努め、運営に反映させている。 ・「気候が良くなったら、散歩の機会を増やして欲しい」との要望があり、改善を図った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議時に、各々が意見や提案をする機会を設け、また、管理者はいつでもスタッフの要望を聞き、また意見を求めるようにしています。	・管理者は、毎月のスタッフ会議や年2回の職員の面接時だけでなく、常に職員の意見や要望の収集に努めている。 ・職員同士も気軽に話し合う関係を築き、申し送りノートなどを通じて意見・情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りやを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社指定のキャリア評価表により、各々の自己評価を把握し、それをもとに面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有します。介護技術や知識習得の、研修に参加するよう、シフトの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会合や研修会があれば、積極的に出席できるよう、シフト調整や、会費負担を承認します。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のご利用者が、自らの意志で入居を決められることは、きわめて稀なことであり、どなたでも「ここはどこだ」「どうして自分はここに居るんだ」と不安であることを十分に理解し、その方の人生を把握した上で、しっかりと傾聴する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者の若い頃や思い出話をされている時は、話をさえぎるようなことはせず、傾聴しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時の面談で利用者の生活歴を把握し、また、日常会話の中から利用者の馴染みの関係の把握に努めている。 ・家族の来訪時には、外食や帰宅、馴染みの美容院に行く機会をつくるなどの支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご利用者のテーブル席を隣同士にするように配慮を行う。共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族にインタビューしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。	・職員は予め家族から生活情報を聞き取り、利用者との話しやすい関係づくりに努め、思いや意向を把握している。 ・意思の表出が困難な方については、表情や動作から汲み取って、本人に寄り添って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を理解、把握してその人らしい、その人の望む生活を送れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人、家族からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。	・本人、家族の意向や要望をもとに関係職員が話し合っ、介護方針と課題を明らかにし、原則3か月ごとに介護計画を作成している。 ・利用者や家族の要望、状況に応じて、都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、発想を柔軟にして、取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、天気の良い日は、散歩に出かけて、心地よい気持ちになっていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（主治医）は月2回、往診に来られ、ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けられています。	・入居時に従来のかかりつけ医との関係継続を確認し、現状では眼科、耳鼻科などの通院以外は協力医の受診に切り替わっている。 ・眼科、耳鼻科などの受診は、家族に付き添いをお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回（毎週火曜日午前中）に訪問していただいております、日常の中での医療面での不安があれば、適切なアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、病院関係者と入退院後の情報交換をしっかりとしている。また医療連携先は入院施設もあるので、日々、良い関係づくりを重ねています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、出来ること、出来ないことを明確にして、単にケアが重くなってきただけで、次のステージを勧めることはしない方針です。	・入居時、本人・家族に終末期への事業所の方針「重度化対応・終末期ケア対応方針」について説明し、了解を得ている。 ・事業所の協力医とは、終末期の医療連携についての協力を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施しています。地域との協力体制は、これから築いていきます。	・避難訓練は年2回、日中と夜間を想定し、消防署の指導を得て実施している。 ・小規模多機能型事業所を含めた施設対応の大型備蓄庫を設置した。備蓄品はこれから備えていく予定である。	・早急に、食料、飲料水、防寒具などの災害用備蓄品を準備することが求められます。 ・災害対策として、地域との協力体制を築いていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入社時にや個人情報やプライバシーの保護の研修を受け、守秘義務に関する誓約書を出している。 ・職員は利用者を敬い、苗字で呼びかけ、丁寧で優しい言葉で対応している。 ・個人情報の記録は施錠のできる書庫に保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、本人の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者にあることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただく等支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食席を工夫したり、刻みやトロミを必要に応じて対応しています。食事の準備、後片付けは、出来ることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者のできることを尊重し、一緒に盛り付けや配膳、後片付けなど行っている。 ・ミキサー食、刻み食、とろみなど利用者ごとの調理方法で食事を提供している。 ・利用者の希望を聞いて献立の変更を随時行い、誕生会にはケーキを用意して、お祝いしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケースに食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしております。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、果汁や甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後ごとに、ご自分で出来る方は、言葉で促し、介助の必要ご利用者は声掛け後、洗面台へお連れし、一緒に口腔ケアを致します。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、本人がトイレに行きたい意思表示や、そういう素振りが見られましたら、尿意・便意の残存能力を今後、残していくためにも、すぐに対応しています。	・排泄チェック表により利用者ごとの排泄パターンの把握し、あるいは利用者の身振りなどで排泄の予感を捉え、さりげないトイレ誘導をしている。 ・リハビリパンツに尿パッドをしていた利用者が尿パッドを外した改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、都度、主治医から処方されている便秘薬にて対応しています。便秘が長引くと、生活リズムがくずれ、体調不良に陥りますので、便秘薬以外に水分の摂取を促しヨーグルト類を毎朝提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となりますよう支援しています。	・入浴時間は原則午前中とし、利用者は、週2～3回入浴している。身体能力に応じて二人介助も行っている。 ・入浴を好まない人には、声かけのタイミングや職員を交代して安心して入浴できるように支援している。 ・利用者の希望に沿った湯加減で、ゆず湯などで楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は天気の状態を見ながら、お誘いしています。ご家族にご協力いただいて、外出、外食をお願いしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、車いすの方も一緒に近隣の森林公園や事業所の周りを散歩している。ボランティアも散歩に加わっている。 ・紫陽花、つつじ、お花見など季節ごとの外出の楽しみを支援している。 ・家族との連携のもと、墓参り、外食、帰宅などの支援を行っている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族に要望しています。希望があれば購入して渡します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。トイレや浴槽も、使っていただけるよう、掃除を徹底することにより、オープン当初の新しさを維持しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居間の壁には職員と利用者が共同で描いたちぎり絵や行事の写真を貼り、温もりと季節感が味わえるよう配慮している。 ・温度や湿度は、利用者のそぶりや職員の体感などで調整している。 ・フローには絨毯を敷き、転倒時の衝撃緩和に配慮している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせ、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごせるような雰囲気作りもしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、ご家族にお願いしたり、本人が心地よくお過ごしできますようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはベッドやエアコン、防災カーテン、クローゼットなどが備え付けられ、馴染みの箆笥、化粧台、家族の写真、仏壇などを持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるように支援している。 ・居室の掃除は職員が行い、清潔が保たれている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階から、床をフローリングの板張り床にするのではなく、じゅうたんにして、転倒時の衝撃を少しでも抑えられ工夫をしています。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。		

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	コスモスの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔が見られる安心・安全・安楽なひとときを提供いたします」を理念に掲げて、地域密着型サービスとしてご利用者・ご家族、職員どうし、ご近所の方々に笑顔で挨拶することに積極的に取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけておりますので、その際にご近所の方々には笑顔で挨拶することと、会話も少し行えるように心がけております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内覧会などを通じて地域の皆様には専門の方をお招きして、認知症講演会を行い、ご理解頂けるように心がけております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回のペースで必ず実施し、これまでの経過報告や今後のイベントの案内、事故報告あれば、対策について協議試合うようにしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の立ち上げの際、自治会会長に、会議の目的・意義や地域密着サービスの内容を伝え、ご理解いただく際に、ご協力いただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を通じて職員どうし、どのような行為が身体拘束にあたるか、理解し、共有できるようにして参ります、。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を通じて職員どうし、ご利用者の尊厳・人格に気を配り、虐待を見逃さないように徹底参ります、。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を本年度中に予定しております。研修を通じて職員どうし、理解し、共有できるようにして参ります、。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書を、ご利用者ご家族と読み合わせをすることにより、ご理解・ご納得頂けるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議にご家族代表としてご出席いただいた際、また日常の、面会に来られた際にご意見、ご要望をいただき、運営に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議時に、各々が意見や提案をする機会を設け、また、管理者はいつでもスタッフの要望を聞き、また意見を求めるようにしています。スタッフどうしも申送りノートなど通じて意見・情報の共有に努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社指定のキャリア評価表により、各々の自己評価を把握し、それをもとに面談し、長所を伸ばし、足りないところを努力目標にするなどを共有します。介護技術や知識習得の、研修に参加するよう、シフトの調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などの機会があれば、積極的に参加して頂けるようにシフトの調整しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のご利用者が、自らの意志で入居を決められることは、きわめて稀なことであり、どなたでも「ここはどこだ」「どうして自分はここに居るんだ」と不安であることを十分に理解し、その方の人生を把握した上で、しっかりと傾聴する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、新たにホームで生活することに対しての、要望や不安な点を収集し、実際の生活に反映させ、ご家族とまめに連絡を取り、ご本人の様子を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はご本人・ご家族の要望される支援を優先しますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の皆様には出来るだけ、自立を促し、出来ないところだけ、手伝えるようにその日の状態を見極めながら対応しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、面会に来ていただくようお願いし、その際にいただく要望を、実行することにより、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者の若い頃や思い出話をされている時は、話をさえぎるようなことはせず、傾聴しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご利用者のテーブル席を隣同士にする様に配慮する。また共通の話題になるようなネタを振り、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。ご利用者同士もめることの内容スタッフ必ず間に入るようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、該当されるご利用者はおりませんが、今後ありました場合、健康面でのアドバイスや、情報の共有が出来るように努めてまいります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ニーズをしっかりと捉えるため、本人・家族にインタビューしています。ご利用者が言葉にならない場合は、ご家族に聞き取りし、また、ご利用者の気持ちになって、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリングなどで生活歴や生活環境を聞き取りし、またこれまでの利用サービスの内容を確認しています。新しく入ってきたスタッフにも必ず、ご利用者全員のヒヤリングシートを見ていただくように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を理解、把握してその人らしい、その人の望む生活を送れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、本人、家族からヒアリングし、その要望をもとにして、スタッフ参加のモニタリングを開催し、いろいろな意見、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、業務日誌や個人別のケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践や、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現状や要望により、それに応えられるよう、様々なレクリエーションを通じて柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設からすぐ近くに県立の森林公園があり、天気の良い日は、散歩に出かけて、心地よい気持ちになっていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（主治医）は月2回、往診に来られ、ご利用者一人ひとりを丁寧に診察していただくことにより、家族の信頼も厚く、適切な医療を受けられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回（毎週火曜日午前中）に訪問していただいております、日常の中での医療面での不安があれば、適切なアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、病院関係者と入退院後の情報交換をしっかりとしている。また医療連携先は入院施設もあるので、日々、良い関係づくりを重ねています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、出来ること、出来ないことを明確にして、単にケアが重くなってきただけで、次のステージを勧めることはしない方針です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時には、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指導を受け避難訓練を実施している。地域との協力体制は、これから築いていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、丁寧で、心のこもった対応で接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、本人の思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者にあることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際は何を着たいのかを、本人に確認したり、モーニングケアの際はブラシを渡して、髪をとかしていただく等支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食席を工夫したり、刻みやトロミを必要に応じて対応しています。食事の準備、後片付けは、出来ることをお願いして、快く引き受けていただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケースに食事量・水分量を記入し、一日一日の経過が分かるようにしております。水分量が不足気味のご利用者には、緑茶だけでなく、果汁や甘味な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後ごとに、ご自分で出来る方は、言葉で促し、介助の必要ご利用者は声掛け後、洗面台へお連れし、一緒に口腔ケアを致します。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツや尿取りパットに頼るだけでなく、本人がトイレに行きたい意思表示や、そういう素振りが見られましたら、尿意・便意の残存能力を今後、残していくためにも、すぐに対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の有無を排泄チェック表で確認し、都度、主治医から処方されている便秘薬にて対応しています。便秘が長引くと、生活リズムがくずれ、体調不良に陥りますので、便秘薬以外に水分の摂取を促しヨーグルト類を毎朝提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの生活での楽しみは、食事と入浴であることを、スタッフは理解し、喜んでいただける入浴となりますよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されますよう、入床時刻や夜間トイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、能力に応じた役割、楽しみ事（洗たくものたたみ、食器洗いなど）を、スタッフから押しつけられるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は天気の状態を見ながら、お誘いしています。ご家族にご協力いただいて、外出、外食をお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、現実として、用心して隠したつもりが、隠した場所を忘れ、物取られ妄想に発展しかねませんので、基本的に現金の所持はしないようにご家族に要望しています。希望があれば購入して渡します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うよう、支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れますよう、配慮しています。トイレや浴槽も、使っていただけるよう、掃除を徹底することにより、オープン当初の新しさを維持しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせ、会話が弾むようにしたり、また一人静かに時を過ごせるような雰囲気作りもしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みの服や身の回りの物を、ご家族にお願いしたり、本人が心地よくお過ごしできますようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階から、床をフローリングの板張り床にするのではなく、じゅうたんにして、転倒時の衝撃を少しでも抑えられ工夫をしています。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ川崎神木本町

作成日 平成27年9月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会に加入して、地域の一員としての活動に参加し、関係性が深まることが期待されます。	自治会に加入する。	運営推進会議にて自治会への加入について相談させていただき、加入のための手続きをする。	6か月
2	35	<ul style="list-style-type: none"> ・早急に、食料、飲料水、防寒具などの災害用備蓄品を準備することが求められます。 ・災害対策として、地域との協力体制を築いていくことが期待されます。 	食糧、飲料、防寒具など災害時に必要なものを揃える。	必要な物品のリストを作成して購入する。	3か月
3					
4					
5					